

「名古屋市シルバーパワーを活用した地域力再生事業」実践紹介 Part2

平成20年度から実施している「名古屋市シルバーパワーを活用した地域力再生事業」（以下、「シルバーパワー事業」）は、団塊の世代をはじめとするシルバー世代の方が、地域でボランティア活動等に参加することで、その地域の課題（個人のちょっとした困りごと等）を解決することを目指しています。市内4区8小学校区における実践を紹介します（前号に引き続き4学区を紹介いたします）。

東区 明倫学区 「孤立死を防ぐ、住民による見守り活動の広がり」 ～ふれあいネットワーク活動の拡充を目指して～

明倫学区では、平成18年度に高齢者が孤立死するという悲しい事件が発生しました。平成11年度から地域福祉推進協議会により「ふれあいネットワーク活動」を推進していたこともあり、地域住民はなぜ回避できなかったのかと、大きなショックを受けました。

このケースは、周りとの関わりを拒否している方であったため、支援を拒む方への対応が課題となっていました。そんな中、平成19年度に「名古屋市孤立死ゼロ・モデル事業」の指定を受け、「ふれあいネットワーク活動」を強化してきました。見守り活動は、従来より民生委員を中心に行っていましたが、高齢者の増加や支援拒否など問題の複雑化とともに、日ごろの見守りを民生委員だけで行うには限界があり、町内会長や近隣住民の協力や連携が不可欠であることを再認識しました。

具体的見守りの方法は、夜間に電気が点いているか、ごみが出ているか、新聞が取り込まれているかなどで安否確認していますが、落ち葉掃除をしているか、いつも買い物に行く薬局に顔を出しているかなど、対象者によって適切な見守り方を検討し、対象者や支援者が負担にならないような方法で実施しています。

見守りの対象者は民生委員を中心に把握していますが、民生委員や区協働委員、老人クラブや女性会などの各種団体が一堂に集まり、見守り対象者について状況報告したり、新たな対象者について話しあう「ふれあいネットワーク運営会議」を年4回開催しています。会議参加者がそれぞれ日ごろの活動のなかで知っている困っている方や心配な方の情報を提供することで、民生委員以外からも情報が入ってくる仕組みができています。また、この会議には、社会福祉協議会や区役所の職員も同席しているため、必要であれば、公的サービスやインフォーマルサービスにつなげる役割も持っています。

このように、地域で起きた困りごとを放置せず、解決に向けて地域役員が中心となって共有し、話し合う場ができています。今後は、近年増えている認知症の方への対応や個人の困りごとを住民の力で解決する方法などを検討していくことが課題となっています。



ふれあいネットワーク運営会議の様子

南区 明治学区 「見守りネットワークから地域支えあい活動の展開」 ～ふれあいネットワーク活動から支えあい活動へ～

明治学区は、以前から孤立死ゼロに向けてひとり暮らし高齢者を中心とした見守り活動を続けています。今回、シルバーパワー事業に取り組むことで見守りを行うネットワークの広がりとその情報に基づく支えあい活動が進められました。明治学区は、以前から見守り活動をおこなっている民生委員が、活動に協力する人材不足に悩んでいたこと、また、地域福祉推進協議会会長の「お互い様の地域の再生」を目指したいという強い思いから、シルバーパワー事業による支えあいの仕組みづくりがはじまりました。

まず、見守りを行う人材、困りごとを解決する人材を増やすことを重点的に取り組みました。その結果、現在では町内会長などの地域の役員や隣近所の情報を持つ方など様々な方が見守り活動に協力し、支えあい活動ボランティアとして活動しています。活動により収集した情報は、担当の民生委員に伝達され、さらに推進員に集約されます。収集された情報の中で、病院の付き添い、廃品回収、役所の手続きなどの困りごとについては、見守り活動を行う者があわせて支えあい活動をする事が多く、認知症高齢者に関する事など専門的な知識が必要な時は、最終的に情報集約する推進員から社会福祉協議会に連絡が入り、専門機関につながっています。また、見守り活動において、孤独を感じている高齢者がいた場合には、高齢者サロンへの参加を促すなど、地域の社会資源をうまく活用しています。

ボランティア活動をする人材や新たな困りごとの情報は、現在活動しているボランティアによる口コミやサロン、ひとり暮らし高齢者が参加する給食会など、様々な集まりの場でのPR活動により集まりました。活動することと困りごとの収集のPRを同時に行うことで、80歳代のボランティアも誕生しています。

しかし、まだまだ協力が必要なことから、ちょっとしたことから活動できるようなボランティア活動の方法を検討し、団塊世代の方が参加しやすいボランティア活動を検討していく予定です。

また、困っていても、なかなか声に出さない人の困りごとの収集方法も課題で、モデル町内を選定し、個別訪問を充実していきたいと考えています。



高齢者サロンの様子

港区 西福田学区 「要援護者の発見と地域の支えあい活動への展開」 ～マップづくりを通じた要援護者の発見について～

西福田学区は、古くから住む住民が多く、祭事などの行事も活発で、地域のつながりが深い学区です。世帯構成人数の平均が3人を超えていますが、高齢化が進み、支援の必要がありそうなひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯も増えています。

今回、このシルバーパワー事業を西福田学区で進めるにあたって、学区の各役員の方や、ボランティア活動者の方などで活用連絡会議を設立しました。この会議の中で、各団体同士の情報交換なども行い、この事業の方針を決めています。この会議で事業の趣旨である地域での助け合いの必要性について話し合わせ、個別支援活動を進めることになりました。学区ではもともと「ふれあいネットワーク活動」を行っており、その対象者からニーズを拾い、そこからできることを考えていこうとしました。その他にも、学区で活動されている女性会の皆さん、民生委員、児童委員の皆さん、町内会活動やボランティア活動をされている方などにお話をお伺いし、ネットワーク活動の対象者以外にも、支援が必要と思われる方を挙げていきました。

この情報をもとに、支援が必要と思われる方、その方たちを見守っている方、ボランティアポイントの認定事業でボランティアカードを発行した方、地域の役員などを、学区をいくつかに分けた地図上にマーカーで色をつけました。地図上にすると位置関係がわかりやすく、「この方の支援はこの隣の方にも協力してもらおう」、「この人はこの人と仲がいい」など会議で地図を囲んで話が弾みました。メンバーの方も、こうやって地図を眺めると今まで気づけなかった近隣の方の状況などが分かるとおっしゃっていました。

併せて、支援の必要な人たちの声を集めるために、モデル地区を決め、個々のお宅への訪問活動も行っています。全部の学区での取り組みを目指しますが、まずはモデル地区の情報をもとめ、学区に必要な支援について、今後活用連絡会議で検討していく予定です。



活用連絡会議メンバーで地図を広げて話し合い

天白区 表山学区 「学区における地域の支えあい活動の実践」 ～お助けマン制度の実施を通じて～

表山学区は、シルバーパワー事業の取り組みの中で「お助けマン制度」を立ち上げました。この制度は、高齢者や障がい者世帯の方が抱える自分ではできないちょっとした困り事、例えば植木の剪定や蛍光灯の取替え、粗大ゴミの搬出、簡単な修繕などを地域住民の助けあい・支えあいで解決しようとするものです。開始は平成20年11月、まずは制度の利用とお助けマン募集を広くPRするために、チラシを町内回覧にのせました。利用については、事前の住民調査でニーズの存在は把握していましたが、思うように依頼が入りませんでした。そこで、日ごろ困り事に対応されることのできる民生委員さんを通じて口コミでも広めていただきました。一方、お助けマン隊員は、立ち上げ当初は活用連絡会議メンバーのみでしたが、回覧版で定期的に隊員を募集したことにより少しずつ増え、現在は19名になっています。

さて、記念すべき初仕事は庭木の剪定の依頼でした。事前に現地を見せていただいた結果、剪定場所が広範囲で全てをお助けマンが行うことが難しかったため、対応可能な一部の剪定を行い、残りの部分は庭師を紹介しました。その後は月に数件ずつ、家具転倒防止金具の取り付け、鍵の修理、粗大ゴミや資源ゴミの搬出、タンスの移動などの依頼に対応しています。依頼を受ける際、ボランティアで引き受けるべきかどうか悩む時もありますので、活用連絡会議のメンバーや社会福祉協議会と意見交換しながら派遣調整を行っています。まだまだ依頼件数は少ないですが、これからも定期的にPRし、気軽に依頼していただける制度に育てていきたいと考えています。

表山学区では、シルバーパワー事業をきっかけに、学区の福祉活動が活発に動き出しています。今後、50歳以上の方だけではなく、子どもも大人も地域住民皆が「できることを、できるときに」活動できる地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。



お助けマン活動：庭木の剪定の様子

本事業のお問い合わせ先 名古屋市社会福祉協議会 地域福祉推進部
TEL (052) 911-3193 FAX (052) 917-0702 http://www.nagoya-shakyo.jp/s_p.htm